



幻の魚・カワバタモロコ
鳴門・大津西小が観察会

用水路に姿なく

鳴門市の大津西小学校5年生35人が21日、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類に指定されているカワバタモロコ＝写真、鳴門市の県立水産研究所の水槽＝の観察に出かけた。県内では、学校周辺の農業用水でしか生息していないとされる貴重な日本固有種。県立博物館自然課長の佐藤陽一さんと徳島大環境防災研究センター特任助教の田代優秋さんの指導で網を入れた。

博物館と徳島大が04年9月、58年ぶりに生息を確認。用水の汚れからその後、年々数が減りつつあるという。

同校の5年生は、地域の環境について学んでおり、この夏、田代さんを招いて身近な生き物の環境について学んだ。その際、児童から幻の魚カワバタモロコを見たいという希望があり、この日の観察となった。捕れたのはメダカやギンブナ、タイリクバラタナゴなど6種類。カワバタモロコは姿を現さず、児童らは「やっぱり幻の魚だった」。(長谷川大彦)



カワバタモロコを探す
児童ら＝鳴門市大津町